春・秋連結　｜　今出川校地開講科目

京都の伝統織物ができるまで
－オンライン体験を考える－

1　目的・概要

私たちは、「京都の伝統織物ができるまでーオンライン体験を考えるー」というテーマで、一年間の活動を行いました。春学期には、錦織の知識を深めるために体験や職人の方々への取材を行いました。その中で、若者の関心の低さや伝統技術の継承の危機を実感しました。若者の関心の低さは後継者不足につながり、錦織の高度な技術は機械に代替することが難しいため、一度途絶えてしまうと再び美しい織物を作ることが困難になります。私たちはプロジェクト科目で、この危機的な現状に対処するための活動を行うことにしました。まず、取材を通して、錦織の工程の細かさと技術の高さを知ってもらうことが重要だと感じました。柄箔は錦織に欠かせない要素ですが、多くの人々には知られておらず、継承が難しいと感じました。そのため、より多くの人々に伝える必要があると考え、錦織と柄箔に焦点を当てました。

また、若者の伝統織物への関心の低さは、実際に触れる機会が少ないことが原因だと考え、春学期に若者を対象とした、錦織に焦点を当てた体験イベントを開催し、秋学期には柄箔に焦点を当てた体験イベントを開催しました。これにより、伝統織物を身近に感じてもらうことができました。さらに、イベントでは錦織の基本知識だけでなく、実際の取材映像を体験者に提示することで、よりリアルな錦織の現状を知ってもらえるようにしました。オフラインだけでなくオンラインも活用することで、楽しいだけでなく課題解決にも取り組む工夫をしました。

Annual Schedule

2023 年	4 月	光峯錦織工房見学
	5 月	錦織に関する基礎知識の習得 ゲストスピーカー・工房取材先の決定
	6 月	小西金糸の工房取材　豊栄繊維北丸豊氏の講義
	7 月	イベントの開催　春学期成果報告会の準備 春学期成果報告会
	8 月	白井柄箔匠の工房取材
	9 月	春学期の振り返り　プロジェクト目標設定 イベントの企画
	10 月	白井柄箔匠の工房取材
	11 月	白井柄箔匠の工房取材　竹内切断所の取材
	12 月	イベントの開催　振り返り・反省　秋学期成果報告会の準備
2024 年	1 月	秋学期成果報告会　まとめ

2 成果達成度

成果達成度に関しては、まず企画をした理由の一つに「京都の伝統織物を少しでも多くの人に知ってもらいたい」という目的がありました。この点についてはまず、参加人数が一定数いなければ知ってもらえない為目的を達成することができないと考え、午前の部、午後の部を合わせて 20 人の定員を設けました。実際は 21 名がこの企画に参加してくださり、目標以上の集客ができました。更に参加して頂いたなかの約半数が、小学生をはじめとした若い世代でした。「京都の伝統織物を少しでも多くの人に知ってもらいたい」という目的に加え、さらに「若い世代に伝えることで伝統文化を後世に残していきたい」という目的もあり、総じて達成できたといえます。次に、「知ってもらう」という点に関しては、我々の企画は錦織、柄箔についてパワーポイントや動画を利用し、分かりやすく説明するとともに、実際に柄箔を織る体験をしてもらいました。特に体験してもらうことで関心、意欲が増すと考えたからです。体験中、参加者は真剣にかつ丁寧に柄箔を織ることに集中していました。特に小学生は熱心に柄箔を織っており、「集中して織れた」や「楽しかった」など肯定的なコメントをいただき、機織り体験は中身の濃いものとなりました。パワーポイントの資料や動画も熱心に見てくださり多数の質問が寄せられました。質問に対する回答を含めて、「柄箔についてとても理解できた」や「錦織と西陣織の違いが判らなかったが、説明を通して理解することができた」などのコメントもいただけました。これらのことから、我々の当初の目的を達成できたといえます。

3 プロジェクトを通じて

私たちはこの一年間、伝統産業に関わる課題や現状を理解し、学生である私たちなりの視点で課題解決に取り組みました。このプロジェクトを通じて学んだことは三点あります。

一点目は、分業体制の手作業で作られていく錦織の奥深さです。プロジェクトを行う前は「織物」と聞くと出来上がりばかりを想像していました。ですが、プロジェクト活動を通じてその完成品ができるまでに数多くの職人の方々が携わり、最高の技術とこだわりが繋がれていく過程が織物の美しさや貴重さをさらに増幅していることに気づきました。春学期や秋学期に行った取材で、その職人の方々の技やこだわりを学ぶことができました。

二点目は錦織を含む伝統産業の課題です。機械化の流れにより衰退が進んでいる伝統産業の中で、

私たちは「消費者の伝統文化への関心の低さ」に着目しました。この問題を解決するために伝統織物を知ってもらう機会・興味をもつきっかけを提供することを考え、春学期に織物体験会、秋学期に柄箔体験会という対面イベントを開催することにしました。イベント内で、取材したことを中心に織物ができるまでの工程を参加者の方々に伝え、実際に織物に手で触れる・作る体験をしてもらうことで、錦織の奥深さや美しさ、さらには身近さを感じていただくことができました。

三点目は学んだことを言語化して参加者に伝えることの難しさです。取材などを通して得た織物に関する知識をイベントで参加者にただ分かりやすいだけでなく、面白く、かつ魅力が伝わるように説明することに苦労しました。何をどのように伝えるかをプロジェクトメンバーで話し合ったり、イベント中に模索したりすることで自身のスキルを磨くことができました。納得のいく説明ができ、参加者に理解してもらえたときに喜びを感じることができました。

伝統織物の美しさ、精緻さだけでなく、その奥にある課題について理解し、その課題解決に繋がると考えられるイベントを行いました。本プロジェクトを通じて、履修生全員がこれからの人生に役立つようなスキル・考え方・知識を得ることができました。

編集後記

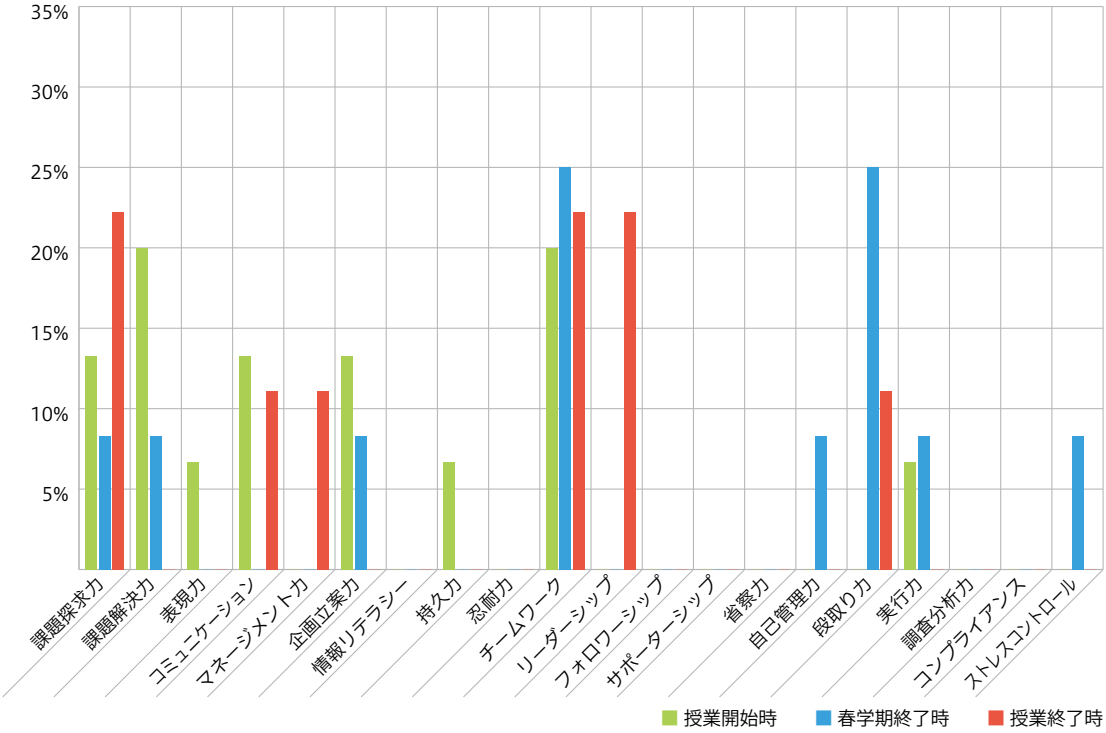
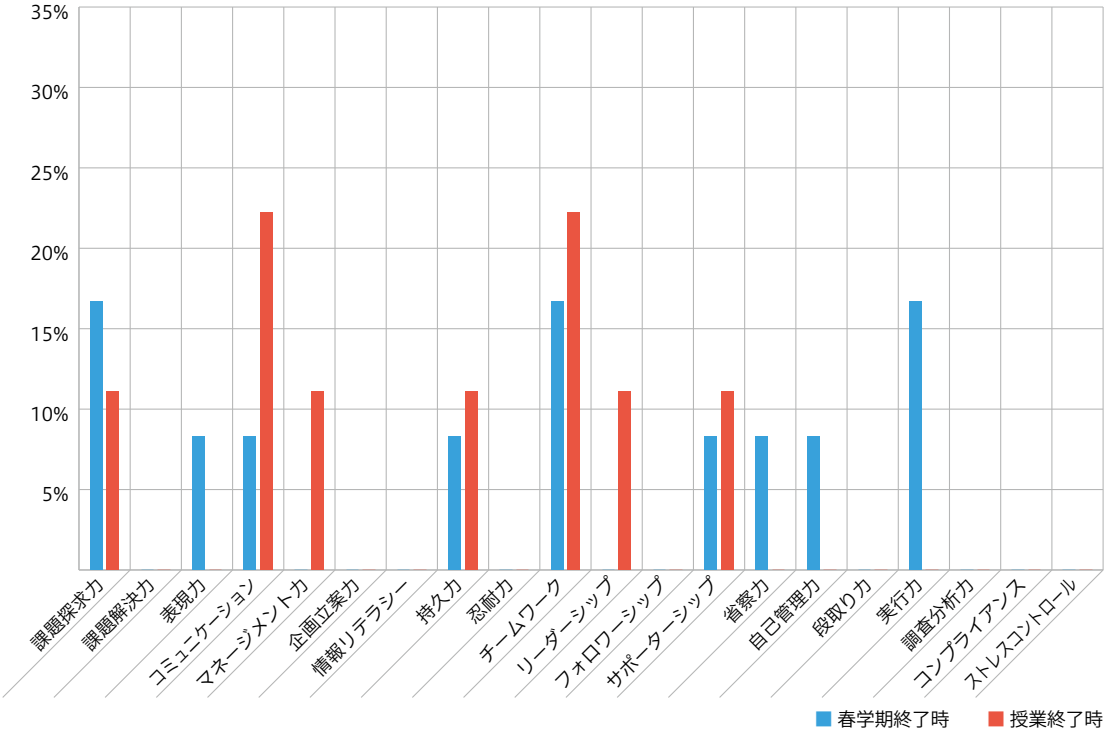
今回の企画は今振り返るとお互いが切磋琢磨して成功し、かつチームワークなど社会においても必要なスキルを身に付けることが出来たと思いますが、メンバーの一人が秋学期から抜けてしまったことで三人になってしまったとき、リトリートでの合宿の最初の話し合いはプロジェクト科目を続けるかどうかについて話し合いをしていました（笑）四人で企画から報告会まで大変だったからです。結果は続けることになりましたが、やはりすべきことが多く、挫折の日々で辞めたくなる時も多々ありました。企画から成果報告までやり遂げた後の達成感は驚くべきものになりました。

プロジェクトメンバー

川井 萌未（文2）　三浦 颯太（法4）　森 唯花（社会3）

プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。